

第47回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：平成28年3月24日（木） 10：30－12：00

2. 場所：内閣府宇宙戦略室大会議室

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、中須賀委員、青木委員、山川委員

(2) 政府側

松本内閣府副大臣、酒井内閣府大臣政務官、
石原内閣府審議官、小宮宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、高見宇宙戦略室参事官、
行松宇宙戦略室参事官、松井宇宙戦略室参事官、末富宇宙戦略室参事官、守山宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

(1) 松本副大臣及び酒井政務官ご挨拶

松本副大臣及び酒井政務官よりご挨拶があった。主な内容は以下の通り。

- ・松本副大臣からは、去る3月4日に「人工衛星等の打上げ及び人工衛星の管理に関する法律案」及び「衛星リモートセンシング記録の適正な取扱いに関する法律案」を国会に提出し、早期成立に向けて全力で進めていきたい旨、また新たな取組となる「スペース・ニューエコノミー創造ネットワーク」の立ち上げを3月22日に行った旨の報告があり、安倍総理からの指示であるGDP600兆円に向け宇宙分野を柱の1つとして推進していく旨のお話があった。
- ・酒井政務官からは、宇宙の開発利用にはグローバルな視点が必要であり、欧米と強調すべきところは強調し、政策効果を大きくすべきである旨、また海外における商業宇宙市場の受注を目指すことが不可欠であり、昨年夏に立ちあげた海外展開タスクフォースの成果第一号として、三菱重工業によるUAEの火星探査機打上げ受注に結びついたことを歓迎するとともに、政府一丸となって頑張っていく旨のお話があった。

(2) 宇宙関連2法案の閣議決定について

宇宙関連2法案の閣議決定について、事務局から報告があった。委員からは次のような意見があった。

- ・これら2法案は宇宙産業、宇宙開発全体を活性化し、さらに前進させるものとして評価している。民間からも大きな期待が寄せられている。2008年に成立した宇宙基本法からの宿題がようやく形になったことを嬉しく思う。
- ・宇宙分野は産業と安全保障のバランスが難しいが、これら2法案は非常に良いところにラインを引くことができているものと評価。速やかな成立を目指してほしい。
- ・単に宇宙諸条約の履行のみならず、産業や安全保障ともバランスがとれた法案となっており、国際的に見ても優れた内容となっている。

(3) 日米、日EU、日仏の政府間対話について

日米、日EU、日仏の政府間対話について、外務省及び事務局から報告があり、委員から幾つか内容について質問があった。

(4) 事務局の一元化及び宇宙基本計画本文の閣議決定について

事務局の一元化及び宇宙基本計画本文の閣議決定について、事務局から報告があった。

(5) 宇宙開発利用大賞、S-NETの立上げ、三菱重工による海外プロジェクトについて

宇宙開発利用大賞、S-NETの立上げ、三菱重工によるUAE火星探査機打上げ受注及び日UAE宇宙協力、の3点について事務局から報告があった。委員からの主な意見は次の通り。

- ・宇宙開発利用大賞の受賞者は、国際競争力のあるもの、これまでにない新たな提案となるもの、防災・減災や違法森林伐採への貢献など、いずれも宇宙産業の活性化につながる取組みを行っている。
- ・S-NETについては宇宙インフラを非宇宙分野の人達がどう活用するか、といった観点から重要な取組であり、こうしたイベントが近年増加している中、政府としてもこれを続けて行って欲しい。
- ・UAEにおける受注では、政府や大学など2国間での包括的なアプローチが評価された。打上げの信頼性、オンタイム率といった技術力や、人材育成などでの期待が大きく、今後もタスクフォースを通じた後押しが重要。

以上